

小平市廃棄物減量等推進審議会講話  
2017年9月26日

# 多摩地域ごみ有料化の効果をみる

東洋大学経済学部教授  
山谷 修作

# ごみ減量のトップランナーとしての多摩地域

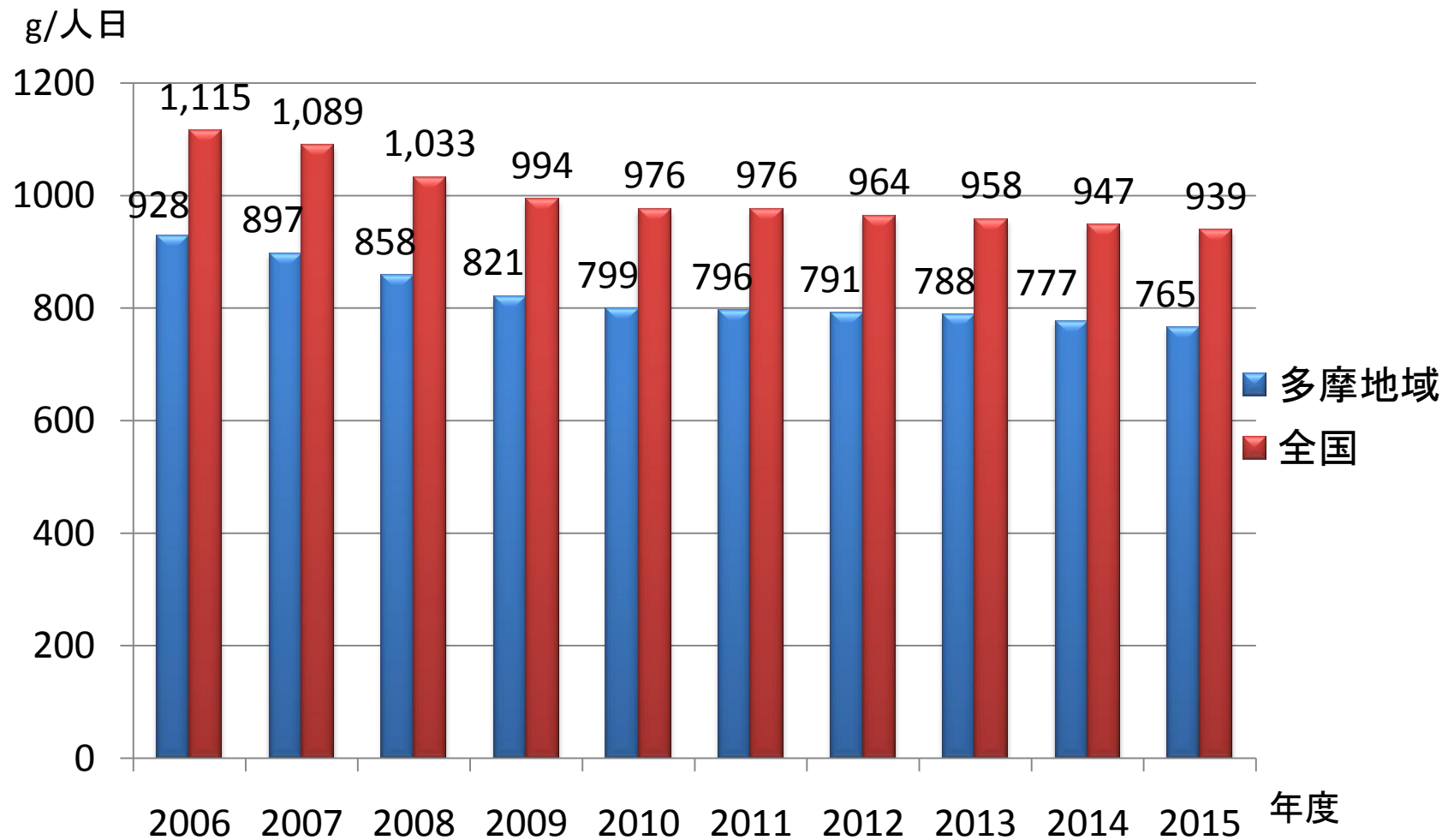
## 家庭ごみ有料化を全30市町村のうち26市町で実施

|      |       |      |      |      |      |
|------|-------|------|------|------|------|
| 八王子市 | 青梅市   | 福生市  | 調布市  | 西東京市 | 国分寺市 |
| 町田市  | 羽村市   | 東村山市 | 小金井市 | 多摩市  | 立川市  |
| 日野市  | あきる野市 | 狛江市  | 武蔵野市 | 三鷹市  | 奥多摩町 |
| 稲城市  | 瑞穂町   | 清瀬市  | 昭島市  | 府中市  | 日の出町 |
| 東大和市 | 国立市   |      |      |      |      |



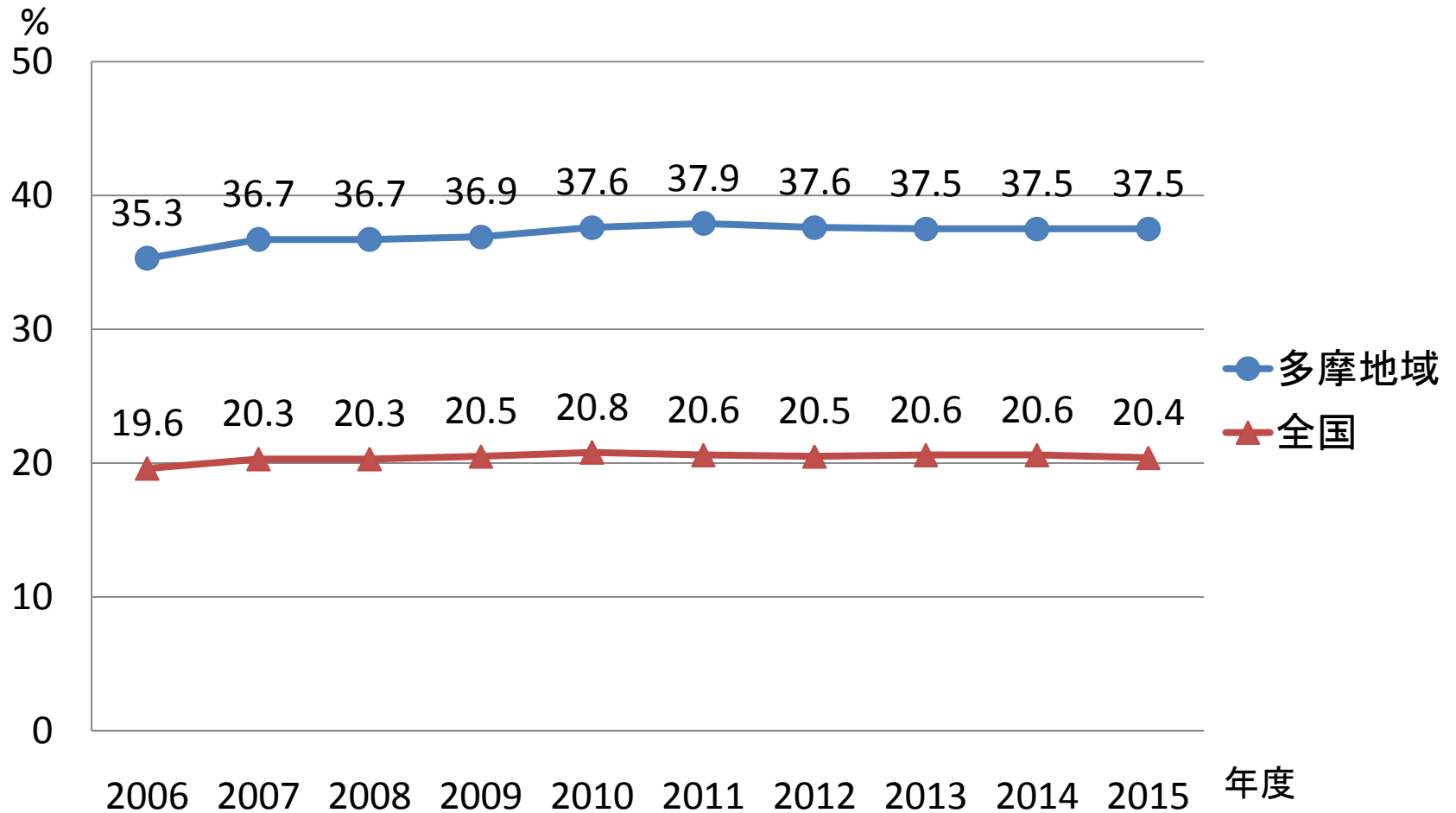
# 小さなごみ排出原単位

## 多摩地域と全国の比較



# 高いリサイクル率

## 多摩地域と全国の比較



# 多摩地域を県域とみれば全国のトップランナー

## ■2015年度に日本一の地域はどこか？

### 1人1日当たりごみ排出量

- トップ 長野県836g
- 多摩地域 765g

### リサイクル率(エコセメ、RDF含む)

- トップ 岡山県 30.3%
- 多摩地域 37.5%

## ■「見える化」やエコセメント化の成果が顕著

# 家庭ごみ有料化から得られる効果

1. 減量・リサイクル推進への誘因を提供できる
2. 負担の公平性を確保できる
3. ごみ減量・リサイクル意識が高まる
4. ごみ処理を効率化できる

\* 3の意識改革効果の傍証として、有料化実施後に値下げしたケースで減量効果の鈍化が顕著に出ていないことに注目。有料化により減量意識が生活様式に組み込まれたものと推測。

# 意識改革を値下げ後の減量維持に見る

| 市 名<br>＜値下げ年月＞    | 有料化<br>前年度 | 有料化<br>翌年度 | 値下げ<br>前年度 | 値下げ<br>実施      | 値下げ<br>翌年度 | 値下げ<br>3年目 |
|-------------------|------------|------------|------------|----------------|------------|------------|
| 大和市<br>＜2009.4＞   | 800        | 702        | 675        | 660<br>(80→64) | 646        | 647        |
| 町田市<br>＜2009.8＞   | 721        | 631        | 602        | 588<br>(80→64) | 582        | 578        |
| 西東京市<br>＜2010.10＞ | 687        | 578        | 570        | 577<br>(80→60) | 571        | 567        |
| 足利市<br>＜2010.4＞   | 825        | 705        | 705        | 705<br>(60→15) | 715        | 693        |

数値は家庭ごみ原単位(g/人・日)  
( )内は大袋1枚の価格変化

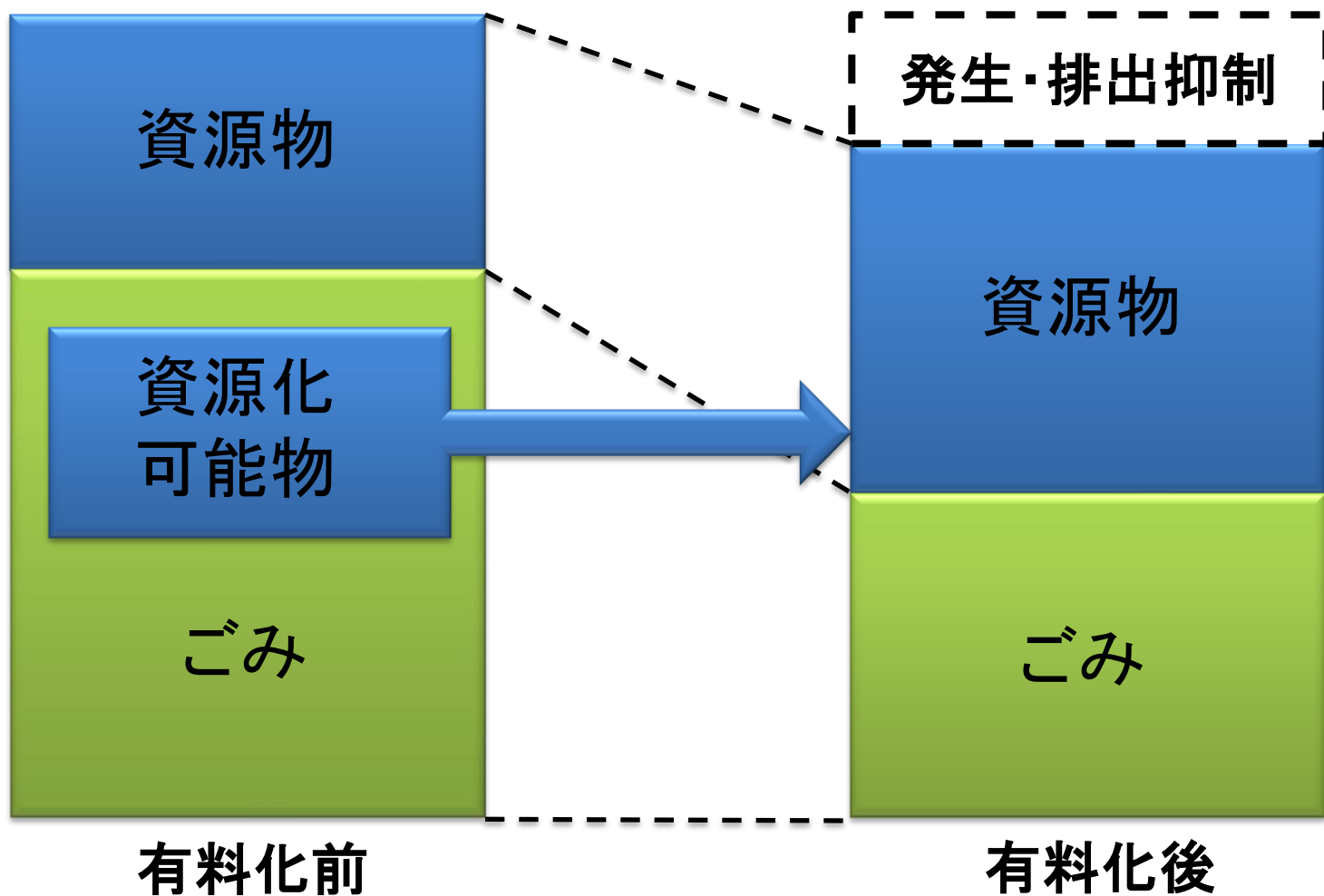
# 有料化による意識改革を意識調査に見る

## 京都市民アンケート調査

### 有料化の 前 後(%)

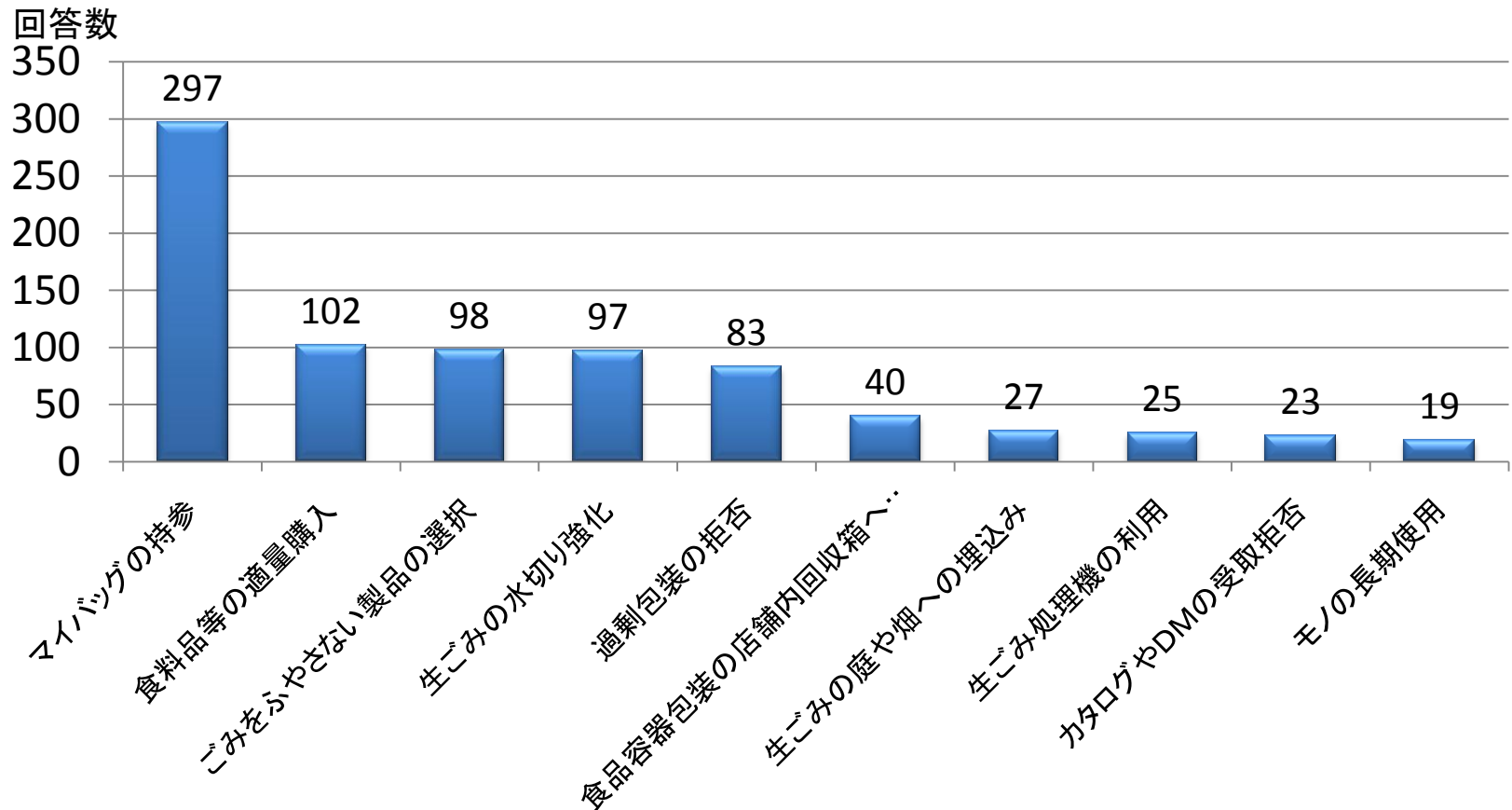
|               |       |
|---------------|-------|
| ごみ・リサイクルへの関心度 | 82→86 |
| 適正な分別排出       | 48→57 |
| 不法投棄・不適正排出の増加 | 77→35 |
| ごみ集積所の美化      | 17→39 |

# 3Rの取り組みを促進する手法としての 家庭ごみ有料化のイメージ



# 有料化に対応した市民の発生抑制行動

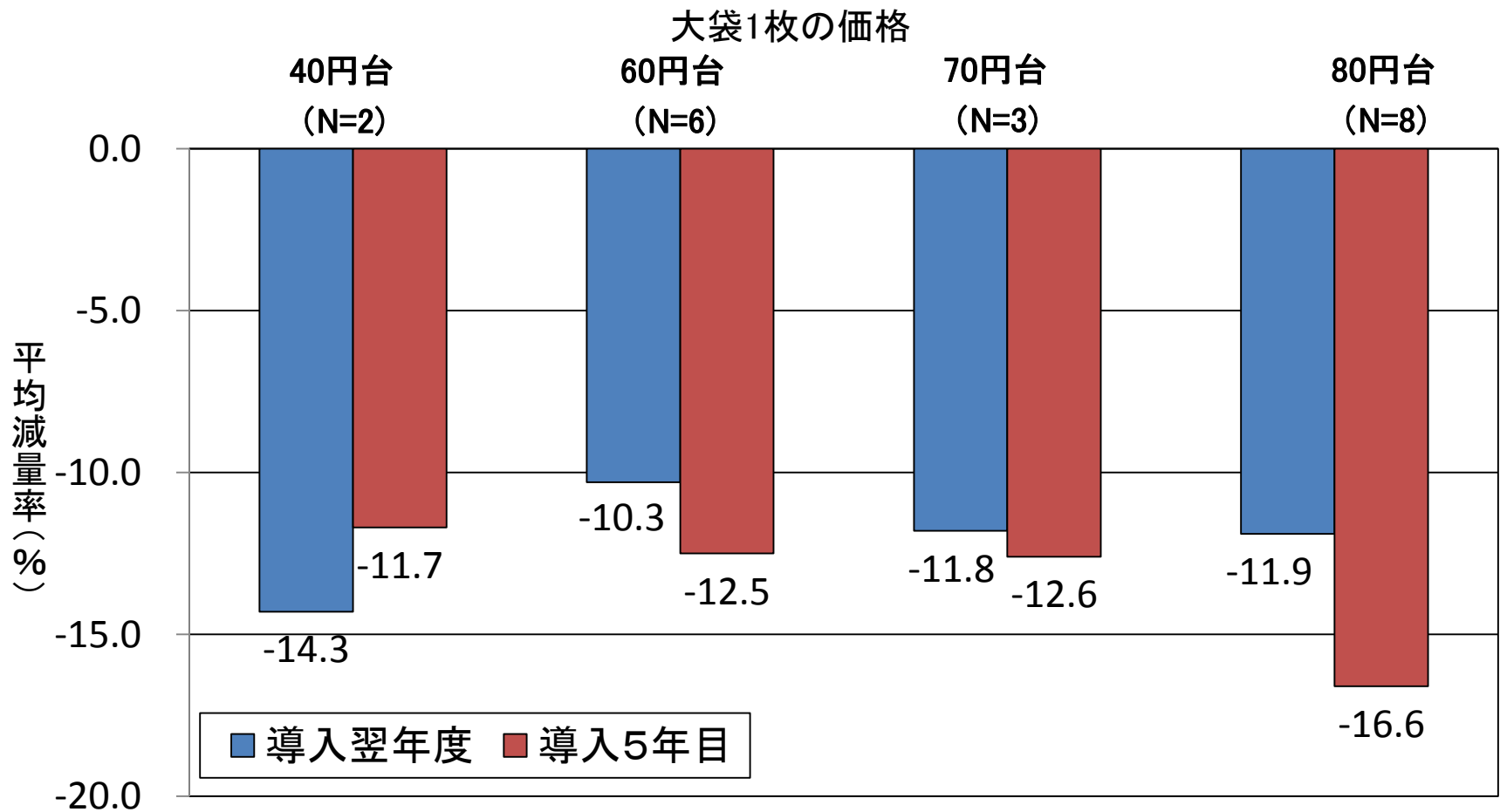
## 多摩市民アンケート調査(2011)



多摩地域有料化市 19市

# 手数料水準と家庭ごみ排出量の減量効果

(青:導入翌年度/赤:導入5年目)

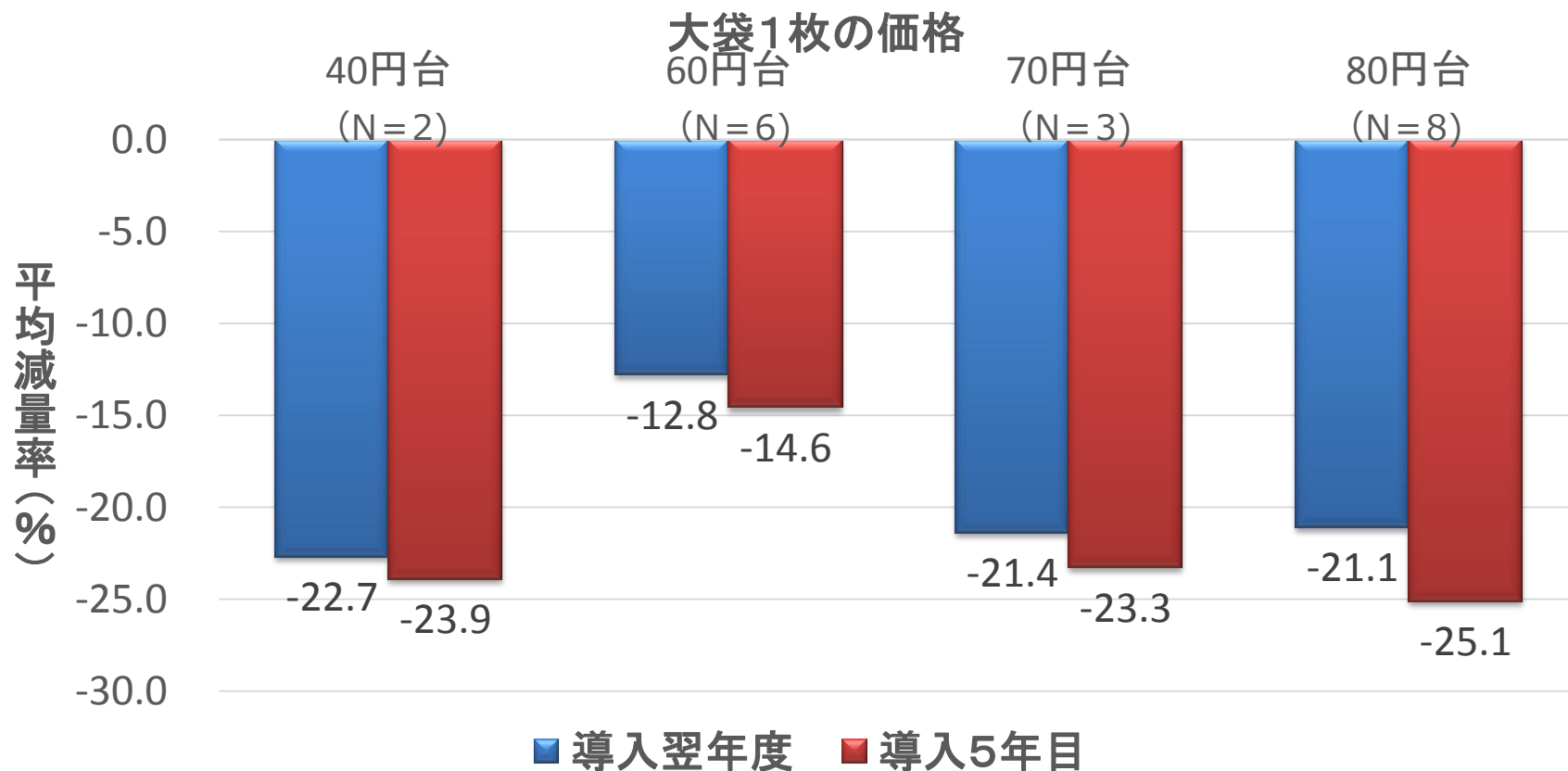


注) 40円台翌年度の減量率が高いのは、多摩地域において最初に有料化した青梅市で資源化拡充や戸別との併用で、減量率が19.6%と高かったことによる

多摩地域有料化市 19市

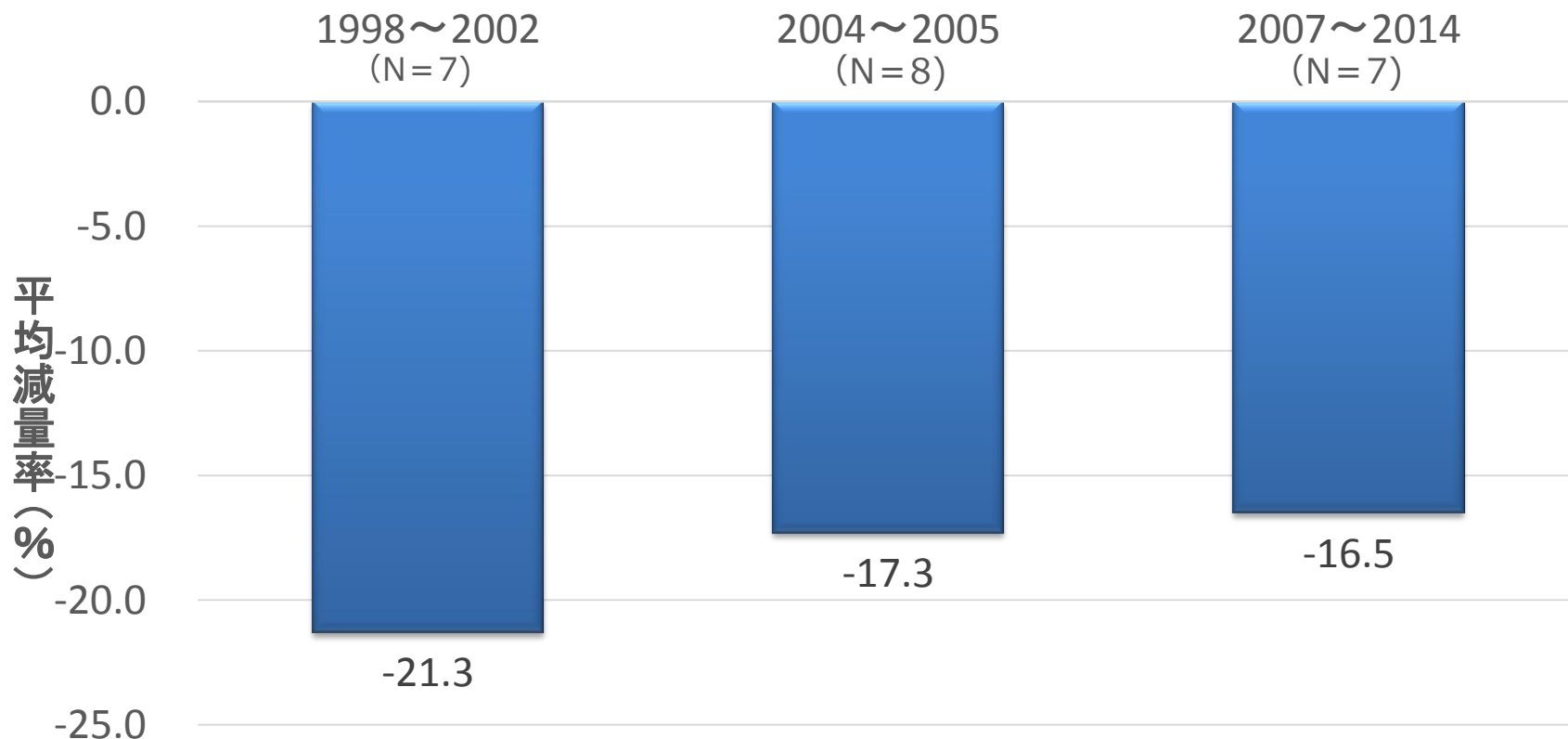
# 手数料水準と家庭系可燃ごみの減量効果

(青:導入翌年度/赤:導入5年目)



注) 青梅市、町田市、西東京市については有料化当初の手数料で集計

# 有料化時期と家庭系可燃ごみの翌年度減量効果 (多摩地域有料化市 22市)



減量率低下の背景：①分別・資源化の進展による併用事業としての分別収集拡充の限界  
②ダストボックスからの収集方式切り替えの減少

# ダストボックス収集の様子



# 戸別収集にごみ減量効果はあるか

■戸建てを中心とした住宅地区で可燃ごみの減量効果が大きく出る傾向がみられる

## 台東区

2004年竜泉地区モデル事業 11.0%減少(区全体約1%減)

2013-15年 戸別を段階的に全区拡大

戸別地区3%減、集積所地区1.5%減(2013年調査)

## 海老名市モデル事業(2011-13年)

戸建て住宅地区 3年間で13.7%減(市全体:約3%減)

繁華街付近地区 3年間で2.9%減(事業系混入、移動)

# 自治体比較情報の「見える化」が機能した

- 団体間の成果指標の比較を通じた間接的な競争原理の導入
- 経済学で、「ヤードスティック競争」と呼ぶ  
(ヤードスティック＝物差し)
- 県内市町村、同規模の市町村など一定のグループの団体間で、1人1日当たりごみ量、リサイクル率などの成果指標を比較し、住民に比較情報を公開することにより、市町村のごみ減量・資源化推進への取組を強化する

# 多摩自治体ごみ指標ランキング

(2016年度)

| 順位 | 1人1日当たり<br>収集ごみ量(g) |       | 1人1日当たり<br>総ごみ量(g) |       | 総資源化率(%) |      |
|----|---------------------|-------|--------------------|-------|----------|------|
| 1  | 府中市                 | 526.7 | 小金井市               | 585.1 | 小金井市     | 54.4 |
| 2  | 立川市                 | 540.3 | 府中市                | 611.4 | 国分寺市     | 45.8 |
| 3  | 西東京市                | 549.7 | 国分寺市               | 628.0 | 調布市      | 44.2 |
| 4  | 東村山市                | 553.5 | 日野市                | 635.7 | 東村山市     | 43.2 |
| 5  | 町田市                 | 553.8 | 狛江市                | 638.6 | 立川市      | 42.7 |
| 6  | 多摩市                 | 555.0 | 東大和市               | 642.2 | 西東京市     | 42.5 |
| 7  | 東大和市                | 557.5 | 西東京市               | 643.0 | 府中市      | 41.4 |
| 8  | 日野市                 | 559.5 | 立川市                | 652.2 | 三鷹市      | 40.7 |
| 9  | 国分寺市                | 571.9 | 清瀬市                | 654.1 | 武蔵野市     | 40.3 |
| 10 | 清瀬市                 | 573.9 | 東村山市               | 659.1 | 狛江市      | 38.2 |

# 多摩地域有料化によるごみ減量効果

## その背後に処分場問題とヤードスティック競争意識

- 対象自治体：家庭ごみ有料化実施22市
- 対象ごみ：収集ごみ(家庭系処分ごみ＋資源)
- 期間と「効果」のとり方：有料化実施翌年度から2016年度までの有料化前年度比の平均減量率
- 減量効果：8.6%～32.9%
  - 一桁の減量率 1市
  - 10%台の減量率 19市
  - 20%台の減量率 1市
  - 30%台の減量率 1市
- 減量率の維持・拡大(翌々年度以降のデータとれる22市)
  - 翌年度減量率<2016年度減量率 22市
  - 翌年度減量率=2016年度減量率 0市
  - 翌年度減量率>2016年度減量率 0市

# 有料化実施と併せた収集効率化

## 国立市のケース

### ■有料化実施前の収集回数

可燃ごみ(週2回)以外の品目:週1回

### ■有料化実施後の収集回数

不燃ごみ・有害ごみ:2週に1回

小型家電(新規):2週に1回

びん・ペット・缶:2週に1回(びん・ペット分離)

新聞・紙パック:4週に1回

その他古紙品目・古布:2週に1回

# 有料指定袋を用いた減量化の工夫

1. 価格据置きとした袋容量縮小（宗像市、大木町）
2. 減量目標達成時の中小袋無償配布により小袋シフトの可能性を「見える化」（富士吉田市）
3. 生ごみ自家処理の取り組み奨励のため可燃ごみ用「生ごみ入れません！袋」を一定枚数無償配布（多摩市）  
大川市、須坂市でも同様のプログラム実施
4. 雑がみ回収を狙いとして、市役所・出張所に持参すると重量に応じた容量・枚数の有料指定袋と交換（総社市）
5. 有料指定袋のバラ売りで、レジ袋削減
6. エコショップのランクに応じた指定袋販売手数料料率（多摩市）